

ふるさと奥尻通信

平成30年1月31日
奥尻町教育委員会発行
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

明治時代に入り、北海道開発の将来性について様々調査があったようだ。数が多いはないものの奥尻島も漏れることなく調査され、しばしば登場する。一面的でも興味深い。

特集 青江理事官の奥尻巡回紀行 その①

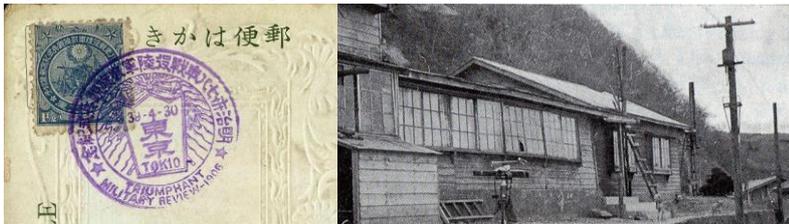
明治19年(1886)、北海道庁が新設され、理事官という役職が設けられました。2月に就任したのが、青江秀(あおえひいず)という人物です。彼は天保5年(1834)に阿波国那賀郡西方村に生まれ、鹿児島県、大蔵省、内務省、海軍省などに勤務し、北海道庁へ。ここで植民地選定、開発計画策定のために全道を調査し、「青江理事官諮問回答書」をまとめています。その後、明治23年に没しています(1)。

青江の奥尻島調査は、明治19年6月4日～6日に行われ、島内各地を検分し、見聞きしたことを「北海道巡回紀行」巻之五(北海道立図書館蔵(2))にまとめています。以下に抜粋してみます。

6月4日、晴れ、風なし。午前5時14分に川崎船で三艘澗(3)を出発、斜めに奥尻島へ向かう。午前11時19分奥尻郡釣掛村字本陣澗に到着。「釣懸岩」あり。鍋つるのごとし。村名の由来。久遠村より海里15里余。島では、東海岸を「内部」、西海岸を「外部」と呼んでいる。戸長役場は、奥尻郡釣掛村、赤石村、薬師村、青苗村を所管する。



「釣懸岩」現在の鍋釣岩



郵便はがきの宛名面 明治38年 旧本陣の建物 外装修繕済 昭和30年代



太田広城戸長 北海道巡回紀行巻之五

◆用語解説と註◆

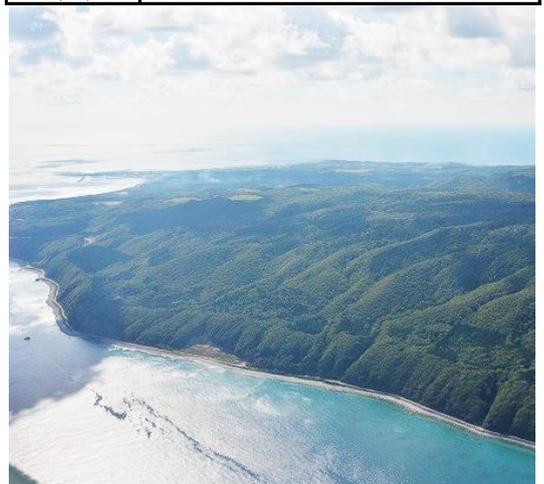
(1)	郵便「はがき」の命名者でもある
(2)	巻二欠。松前町史に巻三、四所収
(3)	さんそうま。現せたな町久遠漁港の北方
(4)	90日以上本籍以外に居住する者。旧法
(5)	元場所請負人の本宅、後に福岡藩が使用
(6)	現在の「中央線」の原型
(7)	現在でも数年ごとにネズミが多く出る
(8)	その後、食害を起こし、駆除され絶滅
(9)	赤石の小浜家の御先祖様

戸数：本籍62戸、寄留56戸、人口：本籍276人、寄留189人(4)。戸長の太田広城が対応、若松甚太郎宅で昼食。警察分署長磯松年太郎、巡查3名勤務。昨年10月1日開設という。午後0時30分、保津船2隻で青苗に向けて出発。太田戸長、筆生1名同行。海岸に磯船が10数隻帆を上げたまま並んでいる。漁期を待つ島外からの船。いわゆる、「夏売買」を行う漁師たち。

戸長が言うには、「釣懸が元々本陣(5)だが、20年前に茶津より2戸が移住して以来、人口が増加している。西海岸の幌内温泉まで3里10余町の間新道(6)を開設する計画で、今年1月に路線を探索して、樹木に番号を付けてきた」という。釣懸沢、釣懸川を望むと、樹木が濃密に繁茂している。

戸長が言うには、「樹木は官林で、大きいものは8、9尺になる。奥尻は有名なネズミとヘビの島で、木の根一か所を掘れば、3、40匹のヘビがいる。ネズミは農作物の被害、種を蒔くと直ちに食い尽くす(7)。また、ネコが多い。昨年、長さ4尺の皮を出荷した。シカは開拓使によって放たれ、3、40頭になった(8)。冬場は幌内温泉のかたわらに集まる。昨年、夏売買に来る者、500艘いた。ナマコ、アワビ、ホタテを採っている。大体一人多くて100円、少なくとも3、40円を稼ぐ。附子川(武士川)を見る。従前から魚がのぼらない川だという。

赤石村に上陸。小浜藤三郎(9)の家で休憩。午後1時15分。藤三郎は今年55歳、熊石村の出身。一昨年一人で渡来し、4統の漁場を設け、今年は漁夫60名を使役し、1400～1500石を收穫した。経済に長じている。熊石の家は売却し、土蔵は今年に移築する。今年から根室地方に鮭の漁場を開くつもりで、残金を子供に託し、自ら出向くことにしている。次号へつづく



緑深き島の姿(現在)



昭和29年(1954)の奥尻市街地です。雪が多く積もっていますので、年が明けた1月頃でしょうか。この写真は、当時神威山の米軍レーダー基地に勤務していたアメリカ人が撮影したもので、後年に奥尻町へ提供された古写真です。場所は、現在で言う、奥尻市街地の信号交差点、旧民宿辺り前から仏沢方向を写しています。右手に「石田商店」(石田土産店の前身)、左手奥に「浪花」(上野千恵子)、その奥に「加賀谷商店」の店舗などが見て取れます。浪花の看板をよく観察してみると、「BAR 味自慢乃店 御料理 浪花」と書かれています。



学芸員オス
スメの一冊を
ご紹介しま
す。本は海洋
研修センター
図書室で借り
られます。

昭和史戦後篇1945-1989
半藤一利

一般に「戦後」とは、1945年(昭和20年)8月15日以後のことを総じて一まとめにした時期区分です。細かく言えば、14日にポツダム宣言を受諾し、9月2日に戦艦ミズーリ号上で降伏文書に調印し終結したアジア・太平洋戦争以後のことを言います。この「戦後」の概念は、日本が関わる新たな戦争が始まった時点で断絶し、リセットされます。

月刊 奥尻のつり 1月号

年が明けまして、最後のイカを求めてヤリイカ釣りの漁船が出ていました。それにともなって、漁協青年部では、新鮮なヤリイカを一般に即売する企画を数回催し、普段は小売りが無いこともあって、会場は大盛況でした。その後、ヤリイカ漁も1月いっぱい終了し、これで今季のイカ漁は終わりました。マイカを含むイカの水揚量は11月にやや持ち直して向上していますが、渡島、檜山管内では過去最低水準で、必然的に輸入量が非常に増えている状況です。サクラマスの方があまり聞こえず、正月明けに小型の群れが回遊したようですが、大物は少ないようです。西海岸、東海岸でポツポツ。ベテランも、マス釣りは難しい釣りだよ、と話していましたので、ビギナーには根気と努力が必要ですね。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つけ1ヶ月 第30回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より
なる鳥今なきた曇二も昼うな乗に掘めかての行
い。賊天つれ。っキんだんっせ三つた、鳥大つ屋
。乾を気たな今て口だつてつて。っのきて屋前
場乾良奴か迺イメ。た押引引一い鈴た隅い来は
全すい大っ雨たし俺。す張張ばる木。にのた笹
部。のしたばがト家大。っつい。さ俺投が。谷
使他でたのか昼ルかしてたて詰モンはげ邪まの鳥
っ家此溜り頃半らた回。来めッの母、魔ず鳥
ででのっ、降はあ笹時運弟たたコ人弟今な始
もも時た今っ良る谷間んは。達と度のめ芋
まやと。まてく。のかだ後俺リも三はでに芋
だっ思で鳥晴今島からに前ヤ来人堀む芋り
不てっ赤賊れままっもいにカてでにしのに
足いてく乾ででたうてに始っ葉

雪根製はやん品ス属色一
ににの、中の名ノ製の般マ雪
対残ダ緑越方ののプ的マ国
応つン色地がよダ柄ラなさん
すたプに方ーランがスもん必
る圧が塗の般でプつちのダ需
た雪主装豪的すといッはン品
めさ流し雪でがいてク、プが
でれでた地す、うい製赤ーい
すたす全帯。マのまで色で
。硬。金で北マがす、かすゆ
い屋属陸さ商。金緑。る

ママさんダンブ?



窓まで埋まってしまった家屋

状半雪きやかかわ少がもドがいき
況分がまはきら雪降数力、か、年
で埋積せりにわにり日雪十と今明
すまもん北追で慣まおに日期冬け
。つつね海わ朝れしき見に待もは
てて。道れかてたに舞はし少穩
しし町のてらい。まわ五て雪や
ま内冬い夕たことれ〇いなかな
ういのはま方町こま、cmたのな
よ、住油しま内数つそ程ので日
う窓宅断たでは年たの度では
ながもで。雪大、雪後のすな続

ドカ雪連続にため息

出数は笑さあ関大い前だ
た年、単つれり西変きでからそ
く前大にてで、でなす。りや、
らに丈雪はい大もすり。雪が
いは夫にいま混まねドとが
な吹な慣けし乱と。カは降
の雪のれまたのま今ン言う
でででせね様つ冬とうの
す凍あいん。子たは来もは
か死つる。けが降関るの、
ら者てか我し報雪東の、
が、々て道が、は

新米之記録(編集後記)

あ当進くす人た雪さ日桜がで
げ辛ん、が力。でれまケ、悲十
ていで約、でゲーで丘真鳴日
いもい五一踏レ挙い、スつがの
まのく〇度ミンにた雪キ先上ド
しで作cmに固ゲ解のがしにが力
た、業を降め整消で少場出つ雪
。体は踏つて備さすなで動た
も足みたいのれがくししの町
悲腰な量く大ま、てたたで内
鳴にががの半しこ心。のす各
を相ら多でがの配前が地

スキー場にも嬉しい悲鳴



交通安全フラッグ 奥尻町内会